



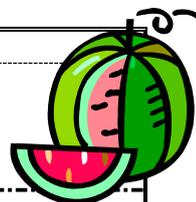
八小だより

武蔵村山市立第八小学校 令和2年7月1日

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html>

教育目標

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- やりとげる子
- 礼を重んずる子



行動目標

わけをそえて話すことができる子
教室で話しているのは一人

自律的に判断し、行動できる子に育てる

校長 牧 一彦

給食有りの通常登校が始まって2週間が経過しました。残堀門に立ち、朝の登校の様子を見てみると、先日の分散登校のときの様子と比べ、格段の変化が見られるようになりました。以前は、うつむき加減で何となく生気が無く、私が声をかけても反応に乏しい様子でしたが、ここ数日は、すっかり元気を取り戻し、いつもの明るい子供たちに戻りつつあります。

「感染症予防対策」と「児童の学び」を両立させることに腐心しています。先日、武蔵村山市教育委員会から「武蔵村山市立小・中学校版感染症予防ガイドライン(第4版)」が発せられ、これまで制限されてきた教育活動が少しずつできるようになってきました。

その一例として以下の3点(概要)があります。

1. 教育活動を行う際は学校全体への感染症の拡大を防止するために、学級単位の活動を基本とする。なお、感染予防を徹底した上での学年集会の実施は可能とする。
2. 部活動の土日の活動再開は7月からとする。
3. 登校・下校時は、適切な距離を取っていれば、マスクを外すことができる。

1は、例えば体育館や校庭で、学年全体で集まって活動することを許可するものです。これにより、運動会の学年練習や、PTA等による学年PTA活動もできるようになります。

2は、本校で言えば、ドッジボール部とハーモニー部がこれに当たります。ただし、1学期中は対外試合や演奏会はできません。

3は、学校での管理が最も難しく、徹底しにくい内容です。誰も指導者がいない中で、「一定の間隔を取って歩く」ことは到底できないので、「マスクを外す」ことを許すことが極めて難しいのです。友達や兄弟と一緒に歩いているのに「1m以上離れて」「一切しゃべらないで」歩くことはほぼ不可能です。なので、学校としては以下のように指導しています。

- 息苦しさを感じた時はマスクを下にずらして鼻と口を出したり、マスクを外して手に持つことができる。ただし、マスク無しの場面では「会話をしない。」「会話する時は、マスク等で口元を覆ってから話す。」
- また、独りだけで登下校する場合は、「マスクをしないことができる。」

こんなに細かな決まり事を作っても、「どうせ守れないだろう」、と思われる保護者の方がいらっしゃるかもしれません。しかし、学校は、完璧にはできないことはわかっていますが、守れるよう指導を繰り返していきます。ここで最も大切なことは、「そのまじりの意義を理解し」「主体的に判断し」「行動できること」です。マスクをしないと先生(親)に「叱られるから、マスクをする」のではなく、「なぜマスクが必要なのか」を理解し、「自ら判断してマスクをする」児童に育てたいと考えます。昨今の感染症対応を巡っては、さらに「自分の健康は自分で守る」また「人に迷惑をかけない」という意識も併せて育てていきたいと考えています。

信号待ちで「密」になることがあるかもしれませんが、しかしそういう意識をもった子供であれば、そこでは会話を止めるはずです。外していたマスクを付けるはずです。誰に言われてするのでは無く、自分で気付いて実行できる力を育てていきたいのです。

布をたくさんいただきました

昨年度、保護者の方から、たくさんのお布を御寄付いただきました。不審者侵入時等に教室を覗かれないように、各教室の扉の素通しの窓に目隠し用のカーテンとして設置し、活用させていただいています。カーテンを購入する余裕がなく、布をいただけて、助かりました。ありがとうございました。



校長 牧 一彦